

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホームハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	令和2年8月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月9日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームハートフルは法人の基本理念「福祉の原点はサービスである。サービスに徹する。」とグループホームの基本理念である「職員も家族の一員となり優しい眼差しと温かい手で我が家にいるような安心感を感じられる暮らしを支援します。」に沿って生活を送っているご利用者の皆様への関わりを行っています。  
 日々の関わりの中ではご利用者様に寄り添い思いを引き出しながら、アクティビティの工夫や外出の支援を行い、生活がより豊かになるよう支援しています。  
 緑豊かな自然に囲まれ、四季の変化を常に感じて頂く事ができ、敷地内にある畑を活用して家庭菜園を行う事で季節の物を育てる楽しみや収穫して食べる楽しみも感じて頂いています。  
 地域と多く関わりを持てるよう支援しており、毎月地域のボランティアをお招きして出し物を披露して頂くことや年に1回地域交流会を開催し地域へと赴くことも実践しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ki_gyosyoCd=2170200485-00&amp;SerViCeCd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ki_gyosyoCd=2170200485-00&amp;SerViCeCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人といよの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和2年9月4日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の馴染みの地域とのかかわりを大切にしたいと考え、職員と一緒に墓参りに行ったり、家族にお願いして盆や正月に帰宅する方もある。花見やブドウ狩り、地域で行われる催し物などに利用者と一緒に出掛けている。家族より親族の葬式に参列させたいと相談があり職員が同行している。「グループホームを知って欲しい」「地域の方と交流したい」と考え、地区センターで事業所主催の地域交流会を行っている。交流会は職員が中心となって企画、運営を行い、多くのボランティアや地域の方が参加し交流している。職員間で話し合いながら、信頼が得られるような声掛けや接し方を心掛けて、利用者が安心して暮らせるように支援している事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「職員も家族の一員となり優しい眼差しと温かい手で我が家にいるような安心感を感じられる暮らしを支援します。」をグループホームの基本理念に掲げ、基本理念に沿って個人の目標を作成する事で全職員で基本理念に沿ったケアを行っています。	管理者は、個人目標が理念に沿った内容となるようにアドバイスしている。職員は、理念に基づき信頼が得られるような声掛けや接し方を心掛けて、利用者が安心して暮らせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月開催しているお楽しみ会で地域のボランティアグループにお招きし活動の披露を行ったり、年に1回地域交流会を開催して下有知地域住民との交流を図っています。又、ご利用者様の住み慣れた地域に着目して個別の外出等も実践しています。	「グループホームを知って欲しい」「地域の方と交流したい」と考え、事業所が主催して交流会を行っている。自治会の回覧板で案内し、ボランティアや地域の方が多く参加して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の福祉大学や看護学生の実習先として公開し実習生への指導を行う事や大学からの講義の依頼を受け講師を行う事で次代を担う学生の育成の協力も行っています。又、小・中・高からのボランティアや職場体験の受け入れも行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で日々の活動の報告や行事の実施についての検討を行っています。又、皆様から意見を貰えるよう会議の中で話し易くなるよう進行の工夫も行います。会議の中で頂いた意見は職員全員に周知をして次のケアへと活かしています。	運動会や家族会などの後に会議を行い、多くの家族が参加している。事業所の取り組みや外部評価など報告し話し合っている。市や民生委員、苦情相談員は参加しているが、地域の代表者の出席が得られていない。	地域の代表者や会議の内容に沿った方の出席が得られ、地域の情報や協力が得られるように工夫して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を中心に高齢福祉課職員や地域包括支援センター職員と直接お会いしてご意見を頂いています。又、必要時には電話でのやり取りやメールを使った連絡を実施する事もあります。	書類の提出やわからないことを聞きに市の担当者を訪ねたり、電話やメールで問い合わせたりしている。介護相談員を受け入れ、利用者のことについて意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権擁護委員会を中心として全職員が身体拘束に関する知識の向上と身体拘束をしないケアの実践をしています。ホームに施錠に関しては夜間職員が一人になる時間帯のみ行っています。	契約時に拘束しないことを家族に伝えていいる。法人が主催する委員会や勉強会に参加し、拘束の弊害等について学んでいる。疑問がある場合は、職員間で話し合って確認している。疑問点や不明なことを法人の委員会に相談することもできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内で実施される研修や外部機関が開催する研修会への参加を通して知識向上を図っています。玄関先にパンフレットを設置すると共に、疑われる事案の場合は包括支援センターに相談する体制を取っています。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内や外部での研修会を通して学びを深め、さらに学んだ事を会議等の場で伝達をし多くのワーカーで情報共有を行っています。又、上司や先輩ワーカーからの指導による知識向上も図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明では、ご家族様がしっかりとご理解頂ける様丁寧に話をすると共に、要所所で説明のペースや内容の理解について尋ねていく事で不明な点が無い様に努めています。又、相手の言動だけでなく表情にも気を配り、より丁寧な説明を心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりの中で話して下さる思いをケース記録に残します。ご家族様は電話や来所時での会話の中でご要望を知りえた時にご利用者様のケース記録内に家族の要望を記入する欄があり、そちらへと記載し情報共有を行っている。	家族が来所した時に近況を報告し意見や要望を聞いている。定期的に、健康状態や生活状況など文章にて報告している。利用者を担当する職員が窓口となり信頼関係を築いている。家族より、穏やかに過ごして欲しいと言われ接し方を工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間のコミュニケーションを多くとり常に意見・要望を話せる環境を作っています。それ以外には年に2回上司との個人面談を行い個別で話ができる場を提供しています。	管理者は、現場に入ることから話聞くように心掛けている。面談を行う場合は、話易いような雰囲気作りを心掛けている。地域交流会の企画、運営は職員が中心となって行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本理念に沿った内容で各自が目標を自分で設定する事で向上心を持ってケアに当たれるようにしています。上司はワーカーを適切に評価できるように評価者としての勉強会を年4回受けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催している職員研修にて知識の向上を図っています。又、OJTによる業務指導や分からない事があればいつでも質問・指導を受けることができる体制を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の福祉大学が開催するグループホーム運動会に参加。関市内のグループホームが沢山集まる場へと参加する事で他施設との交流も図っている。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の時からより深くご利用者の事やご家族様の思いを汲み取れるよう落ち着いた場所にて傾聴をし事前面接記録へと記載します。担当職員を中心にご利用者が安心感を感じていただける支援を検討しケアマネジャーを通してケアプランへと活かしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や契約の段階で傾聴を行い、ご家族様が不安に思っている事や気持ちの聞き取りを行っています。ご家族様への連絡調整をケアマネジャーや管理者から担当の職員へと徐々に移行していき、対応窓口を一本化する事で信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様の思いを傾聴していく中でどんな事に困っているのか等ニーズを引き出していき、併設施設相談員とも連携を図る事でご本人様やご家族様がより良いサービスを受けられるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の掃除をご利用者様を交えて一緒に行ったり、洗濯物をたたむ事や食材の盛り付け等、日常を送る上で一緒に出来ることをご利用者様と共に行っています。又、喫茶店への外出の時には同じテーブルで一緒にお茶をしたり、家庭菜園を知恵を頂きながら行う等一緒に生活する時間を共有しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開催しご家族様と一緒にでかける行事や運動会を開くことで一緒に楽しむ時間を設定しています。普段の中では面会に来所された時に様子を説明したり年に4回近況報告書を発送しご様子を伝えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様へ入所後も外出や外泊を自由に行える事を説明し、時期に合わせて地元へと赴くことで馴染みの関係性を失わないよう努めています。又、個別外出を計画し、ご利用者様の慣れ親しんだ地域へと出かけられるよう支援しています。	利用者の要望を聞き、慣れ親しんだ場所に出掛けている。一緒に墓参りに出掛け、昔馴染みの方と会うことが出来ている。担当の職員から利用者の要望を家族に伝え、盆や正月に帰宅する方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常を送る中でご利用者様同士の関わりを見ながら必要な時には間に入りコミュニケーションの橋渡しをする事で関係性を良好に保てるように支援しています。必要な時にはお席の移動もしています。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了したご家族様へもグループホームが開催する地域交流会に気軽に顔を出して頂けるように声かけをしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接記録にあるご要望を確認する事や日々の会話の中から出てくる気持ち・要望を汲み取りご利用者様の意向を把握・対応しています。	利用者同士の会話の中から思いや意向を把握している。夜間に居室で1対1となった時にゆっくりと思いを聞いている。困難な方には、聞き方を工夫して思いを把握できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接での聞き取りで生活環境や馴染みの暮らしを把握し、面接を担当した職員によって作られる面接記録によって他ワーカーも情報を共有しています。又、日々の関わりの中で知ることが出来た新たな情報は個人ケースへと記録しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日々の変化を個人へと記載しています。又、月に一度ケアプランのモニタリングをケアマネジャーと相談しながら実践しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の気持ちを引き出し、担当職員・ケアマネジャー・ご家族様・医師・看護師が連携を図りながらご本人のニーズが反映されるよう検討しケアプランをケアマネジャーが作成しています。毎月のモニタリングや半年に1回のカンファレンスを通してプランとニーズのずれがないかを検討しています。	家族が来所した時や電話にて近況を報告し計画への要望を聞いている。毎月のモニタリングや担当する職員の意見、家族の要望を参考に計画を作成している。必要に応じ、医師や看護師の意見を反映している。会議にて話し合い、職員の意見や気付きを反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中にある気づきを個人ケースへと残し職員間で情報を共有すると共にケアマネジャーへと伝達をし、必要時にはプランの見直しをしながらケアを実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様による受診対応が基本の形ではあるが通常の車では受診が難しい場合等は受診の送迎を病院で落ち合う等可能な範囲ではあるが臨機応変な対応を心がけています。車椅子やシルバーカーに関してはご本人に合っているものがあれば併設施設から貸し出しもしている。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域のボランティアへと依頼し民謡やフラダンスの披露などを実施している毎月のお楽しみ会の開催等ご利用者様に楽しんで頂く時間を設定しています。又、地区の文化祭等行事がある時には出来る限り参加できるよう進めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前面接の段階でご本人・ご家族の要望を確認し協力医療機関以外でも自由に受診が出来る事を説明しています。協力医療機関との連携により体調管理や体調不良時の24時間体制を確保しています。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。利用者の状態により事業所が送迎することもある。家族に、口頭もしくは書面で状態を伝え、結果を確認している。不明な点は事業所からかかりつけ医に確認することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に併設施設からバイタル測定を実施しに来所し、体調の把握や管理を実施しています。又、日々の生活の中で体調の変化が起きたときには都度看護師へと報告しています。夜間に関しても必要時には連携を取れる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には週1回の間隔で職員が面会させて頂き看護師やご家族様、医師との情報共有を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関と24時間・365日の連絡体制を確立していると共に併設施設の看護師にも24時間連絡できる体制を確保しています。ご家族様へは夜間付き添いをお願いし、協力医療機関・看護師・家族・職員が連携を図り終末期のケアを行っていきけるよう整えています。	契約時に看取りの指針に基づき、家族に説明して意向を確認している。状態の変化に伴い早い段階から家族の意向を再確認している。家族と医師、職員で話し合いながら意向に沿えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急手当が迅速に行えるよう、職場内の研修にて年2回心肺蘇生や応急手当の訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と共同で行う避難訓練を年に2回、グループホーム独自で実施している避難訓練を年2回、計年4回避難訓練を実施し、ご利用者の皆様にも参加して頂く事で災害時にも迅速な対応が取れるように努めています。	震災時の対応マニュアル(日中、夜間)を作成し職員に周知している。併設施設も含めて様々な状況を想定して訓練している。併設施設と事業所に分けて備蓄している。玄関先に非常持ち出し袋、ヘルメットを設置している。	

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様との会話は必ず同じ目線になるよう高さを合わせ、会話のペースもご利用者様と同じになるよう合わせていきます。目上の方である事を念頭に置き丁寧な声かけを行うと共に同じ場所で生活する「家族」のように親しんで頂けるような言葉がけを行っています。	職員は、コミュニケーション技術を学び、目線を合わせて、穏やかに声を掛けることを心掛けている。利用者の思いを傾聴し、心に寄り添えるように取り組んでいる。排泄時の声掛けなど他の利用者に聞こえないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から思いを伝える事が難しい方にも自己決定ができるよう声かけや質問の工夫を行っています。日常のレクや関わりに関してもご本人の思いに沿って対応ができるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の中でリビングで起きている時間や居室で静養する時間等ご本人の思いに沿って自由に生活して頂きます。ある程度決まった時間にアクティビティの提供を行います参加も自由で休まれている方や見学している方等様々です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好きな髪形やお好きな服を着て頂けるようご希望時にはその都度対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の盛り付けをご利用者様と一緒に頂いて頂き献立についての話を会話に取り入れる等食への関心を引き出せるような関わりを行っています。又、食器洗いやお盆を拭くなど出来るだけ多く関わって頂ける様に支援しています。	利用者の要望から朴葉寿司やおはぎ、手作りおやつなど一緒に作っている。利用者は、菜園で収穫した野菜で漬け物を作っている。盛り付けや配膳、食器洗いなど出来ることを手伝っている。職員は、会話を楽しみながらゆっくり食事出来るように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者からの食材・おやつを提供する事で一日を通して栄養バランスの摂れた食事となっています。水分補給にも注意を払い毎食のお茶に10時、15時とおやつと一緒に飲み物を提供しています。又、希望された時にも水分の提供ができるように準備しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と夕食後は歯ブラシを使いより丁寧に口腔ケアを行います。朝食後と昼食後にはうがい薬を用いて口を濯いで頂く事で一日を通して口腔内の清潔が保たれるように努めています。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレ利用される方はその都度トイレ利用のチェックを行い、ご自分から訴えられない方には決まった時間にトイレのお誘いをしています。チェックを行う事でご利用者様の排泄パターンの把握に努め早めのトイレ利用ができるように声かけを行っています。	排泄チェック表で確認しトイレに誘導することを心掛けている。布パンツの方は現状を維持できるように見守っている。職員は、状態の変化に伴い、利用者・家族の意向を確認しながら話し合って排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に必要な水分摂取量を基準に出来る限り大目に水分摂取が出来るように声かけを行っています。日常の運動にも力を入れており、体操や廊下の歩行運動等出来る限り全員に参加していただける様促しています。又、時期によってはおやつ時に手作り寒天を提供する時もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回入れるよう設定しており、ご利用者様は基本決まった曜日に入浴の声かけをしています。しかしお誘いし嫌がられる様子が見られる時には翌日の方と交代する等気持ちに沿った対応を心がけています。入浴中にはコミュニケーションを多く取ったり一緒に歌う等楽しめる工夫をしています。	入浴日は決まっているが、夏場など希望に合わせて対応している。湯温や入浴の時間、順番など利用者の希望を聞いている。会話したり、一緒に歌ったりしながら楽しめるように工夫している。年末には併設施設の大浴場で温泉気分を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の中でメリハリを持って生活して頂けるようにリビングで過ごす時間やアクティビティへの参加の声かけを行います。食後などご本人様が希望される時には居室やソファでくつろぐ等自由に静養して頂きます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋と薬は職員が預かり日にちや朝・昼・夕を確認して準備を行います。一日で服用して頂く薬の準備や服薬支援を職員が行う事で適切に服用して頂いています。新たな薬が処方された時には申し送りへと記載し職員全員で把握をします。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で多くのご利用者様に役割を感じて生活して頂けるように洗濯やリビングの掃除、食材の盛り付けにお盆拭きなど様々な活動をご利用者様と一緒にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出が行えるように喫茶店への外出や近隣地域で開催される催し物への参加を行っています。又、家族会ではご家族様と一緒に外出できるよう行事を計画しています。	家族より、親族の葬式に参列させたいと相談があり職員が同行している。事業所が企画して家族と一緒に外出している。花見やブドウ狩り、地域の民謡の集いなど職員と一緒に外出している。急に外出を希望する場合は、職員が付添っている。	

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用された金額に関してはグループホームでお預かりしている預かり金から支払いを行います。ご本人様から希望される方にはご自身のお財布にお金を持って頂き買い物等で使用されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとご利用者様から要望があった時にはグループホームの電話を使用したり時には公衆電話の利用付き添いも行っていきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームの周囲は多くの自然に囲まれている事を活かして季節の花を見たり新緑を感じていただく等リビングの中からも四季を感じて頂ける様になっています。リビング内の温度・湿度計を小まめに確認してご利用者様にとって過ごしやすい環境になるよう空調による調節や外気を取り入れる等を行っています。	玄関先に紫陽花が植えられている。リビングには、季節の草花や利用者と一緒に作った作品を飾っている。職員は、利用者の役割作りを大切に、リビングの掃除を一緒に行っている。利用者の要望を取り入れながら席の配置を考え、快適に過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの空間にはソファや畳スペースがあり、お好きな場所で過ごして頂ける様になっています。日常生活の中でのご利用者様同士の会話等にも注意を払いテーブルの配置や必要時には席の移動等も行っていきます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前面接の際にご本人とご家族様へ馴染みの家具や食器などをお持ち頂ける様に説明をしています。居室のレイアウトに関してもご希望の配置になるように相談しながら決定をしています。	テレビや机など使い慣れた物を持ち込んでいる。馴染みのぬいぐるみや思い出のある白黒の写真飾っている。各部屋には洗面台があり化粧など身だしなみを整えることが出来る。ベッドやソファなど利用者と相談しながら居心地よく過ごせるように配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の状態に合い、自立した生活を送って頂ける様、トイレの場所をわかりやすく大きく表示をしながら自分で行けるよう工夫しています。居室の入り口上には居室名とご利用者様の名前を表示し自分の部屋が分かりやすくなるように対応しています。		